



園だより

文京区立第一幼稚園
令和5年度12月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

日本の伝統文化をつないで

園長 田村 秀子

色付いた木の葉が散り始め、秋も深まってきました。園庭のアカメガシワやケヤキの葉をお面ベルトにつけて、動物になって遊ぶ子供たちもいます。季節の変化を遊びに取り入れ、楽しんでいます。

今、落ち葉掃きボランティアの保護者の方々が交代で毎朝、庭門の周囲や土の庭の落ち葉を竹帚で掃いてくださっています。「あっ、〇〇ちゃんのお母さんだ、おはよう」「おはようございます」「今日はありがとうございます」「がんばりますよ」など子供が友達のお母さんやお父さんと挨拶したり、保護者同士で声をかけ合ったりする姿がとてもほほえましく、温かいものを感じます。

先日は「昨日は風が強かったから、きっと落ち葉がいっぱいで大変だと思って」と当番ではない保護者の方がいつもより早く来て、お子さんと一緒に落ち葉掃きをしてくださっていました。子供も小さいホウキを持って、落ち葉掃きをしようとはりきっています。落ち葉を右から左に寄せようとして足を開き、ホウキの先をよく見て、重心を右から左に移動させ、集中して頑張っていました。落ち葉掃きは、いい運動になります。「最近落ち葉掃きができるところがないから、嬉しいです」「道路は車が来て危ないし」「子供にも経験させてあげられて、よかったです」と話していました。本当にそうですね。竹帚は落ち葉を掃くのに適した道具で、日本の伝統文化の一つです。ホウキの先や側面をうまく使って動かすと落ち葉をたくさん集めることができ、楽しくなっていきます。

園庭に出てきた子供たちは「わー、きれいになってる」「お母さんたちが集めてくれたんだ」と落ち葉の山に触れてみたり、きれいな色の落ち葉を見付けたりして嬉しそうです。イチョウやカエデの紅葉が進み落ち葉が増えると、今度は子供たちが落ち葉掃きをするようになります。保護者の方々の姿が日本の伝統文化を子供たちへとつないでいます。

また、今年度は一幼会と園が共催で4年ぶりに餅つきをします。杵、臼、せいろ、かまど、ひしゃくなどの用具を出し、臼に水をはって準備しました。臼を廊下に置いておくと子供たちは興味深々で、「何だろう」「おもちつきの時のだよ」と顔を近付けたり触ってみたりしていました。

保護者の方々も臼を移動させながら、「これ、何の木ですか?」「どうやって作るんだろう」「一本の木から彫っていくんだって」「すごいね」などと興味深々でした。実家やお寺、園などで餅つきを経験したことのある方もいれば初めての方もいますが、経験を伝え合い、力を合わせて、おいしいお餅を作りたいと思います。私も和菓子屋の義父母や世田谷の園で出会った方々から餅つきを教えていただき、ずっと楽しんできました。園での餅つきを通して、日本の伝統文化が次の世代に伝わっていくことを嬉しく思います。

スタッフ皆で準備した次の週、群馬の実家から車で石臼を運んでくださった方がいました。古い木の臼が壊れても大丈夫のように、石臼をいただき、藤棚の横に置くことにしました。古くていいものがたくさんある第一幼稚園。日本の暮らしや文化のよさをつないでいけたらと思います。「餅つきって何か楽しい、面白い、おいしかった!」と子供たちが感じてくれたら嬉しいですね。